令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立松梅小学校

４月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

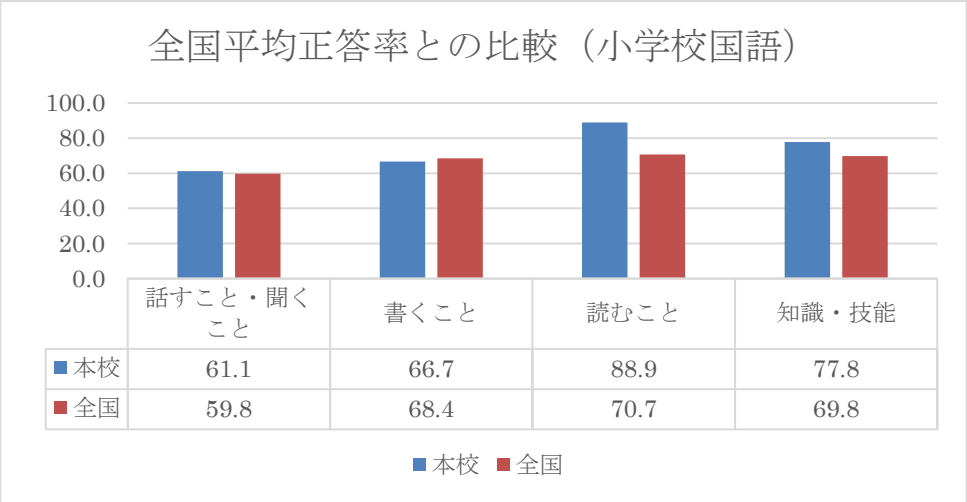
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的生活習慣、家庭学習の状況　など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況　など

■調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学 6 年生・中学 3 年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

１ 国 語



(1)結 果

ほぼ全国平均正答率と同等または上回る結果でしたが、「書くこと」は全国平均を下回っています。また、無回答については、ほぼ見られません。

(2)成果と課題

今回の調査では、「読むこと」の領域の正答率が全国平均正答率を 18.2 ポイント上回りました。中でも、「物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」事項では、全国平均を 20 ポイント以上上回りました。定期的に朝の活動として学校全体で取り組んでいる「地域の方々にしていただく読み聞かせ」を通して、文学作品にふれたり、話の概要(あらすじ)に対する感想を発表したりするなどの活動を積み重ねてきた成果が表れていると考えられます。課題は、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる」事項の正答率を上げることです。苦手にしている児童が多くいます。資料を活用して自分の考えを述べることや、表現の工夫に気づくことは、それらの内容について各学年で学習するだけでなく、実際の学校生活の中で発表したり、人の表現の工夫のよさに気づかせたりする活動を意図的に設定していくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

○これまで通り、「地域の方にしていただく読み聞かせ」を通して、学年に応じた文学作品にふれさせたり、感想を述べさせたりする活動を継続させていきます。また、高学年では読み聞かせ後に、作品の主題をまとめさせる活動なども設定していきます。

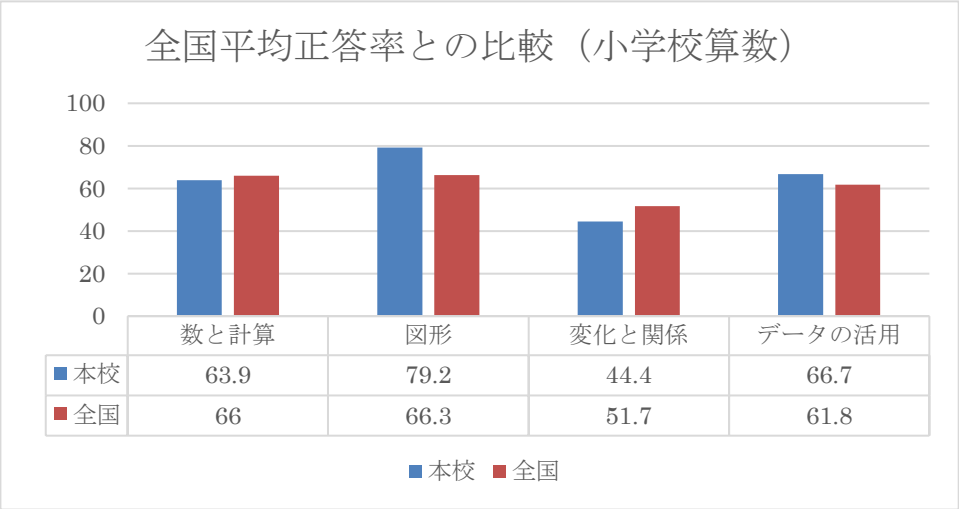
○学校全体で実施しているスピーチタイムにおいて、写真等の資料を用いて自身の考えを発表したり、発表後に友達の発表に用いられているよい表現技法について称讃したりする活動を今後も継続して積み重ねていきます。

【ご家庭では】

○音読を一緒に聞いていただくことで、お子さんの意欲・集中力が高まります。そして、繰り返し音読することが、文の構成、言葉の意味を理解することや、文節ごとに区切って読むことにつながります。

○読書を大切にしていきましょう。様々なジャンルの本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。家族が読んでいる本について、あらすじ・主題や印象的な場面を紹介し合ったりするのも更に読書意欲が高まることにつながります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、読書習慣をつける上でおすすめです。

２ 算数



	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
本校	63.9	79.2	44.4	66.7
全国	66	66.3	51.7	61.8

（1）結　果

「図形」と「データの活用」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答についてはほぼ見られません。

（2）成果と課題

今回の調査では、「図形」の領域について、全ての問題で全国平均正答率を 10 ポイント以上上回っていました。実物を手にして考えたり、デジタル教科書を用いることで立体的に見て考えたりした成果だと考えられます。課題は、「数と計算」の領域の、「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題」の正答率が全国平均を大きく下回っていました。

領域を問わず、「問題に対してどのように考えるのか」以前に、「自力で問題を正しく読み取り、何が問われているのか」を理解する力（読解力）の育成を、算数だけに限らずあらゆる教科において日頃から意識して指導していくことが重要であると捉えています。

（3） 学力向上のための取り組み

【学校では】

○これまで通り、図形領域の学習では、具体物にふれさせたり、デジタル教材を活用したりすることで、平面・空間図形のより認知しやすくした上で、角や辺・作図等について考えさせます。

○日頃の授業において、学習問題について、自力で「何が問われているのか」を読み取っていく活動を設定することで、算数科における読解力や自身で考え解き進めていく力（主体的に学ぶ力）を育てていきます。

○様々な見方や考え方ができるように、複数の解法が出てくるような学習問題を設定し、児童同士で考えを交流させる活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、思考力や表現力を高め、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

○お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、最終的な答えの正誤だけでなく、答えを導き出すプロセスについても称賛の言葉をかけてください。

○生活場面で、算数で学習したことを活用できると、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」等と算数が好きになったり、既習内容を復習したりすることにつながります。保護者の皆様の方から、学習内容を活かせそうな生活場面でお子さんに話題を振ったり、活かせそうな場面を意図的に設定したりして、生活場面で算数を使ってみましょう。

3 生活習慣や学習習慣等に関する調査

（1）結果

※「当てはまる」「どちらかで言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

≪生活習慣・自己肯定感・規範意識について≫

調査項目	本校　%	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	100%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	50%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	75.0%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	62.5%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	50.0%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	87.5%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	100%	79.5%

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っており、生活リズムが身に付いてきています。これからも家庭と学校で協力して、指導を継続していきたいと思います。

将来の夢や目標については全国平均を下回っています。継続して考えさせていくことが重要だと考えます。

≪家庭学習の様子≫

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段１日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「３時間以上」	0%	11.0%
「２時間以上、３時間より少ない」	0%	12.5%
「１時間以上、２時間より少ない」	75.0%	31.1%
「３０分以上、１時間より少ない」	0%	27.0%
「３０分より少ない」	12.5%	13.0%
「全くしない」	12.5%	5.3%

家庭学習については、75%の児童が「1 時間以上、２時間より少ない」時間勉強しています。全く勉強しない児童が全国平均を上回っていることや、2 時間以上勉強する児童がいない点は特徴だと言えます。かなり個人差が見られるので、個々の実態を随時把握しながら保護者と連携して児童の発達段階に適当な学習時間の習慣化を支えていくことが重要です。

（2）改善に向けての取り組み

【学校では】

○学校では、月に１回設定している「家庭学習パワーアップ週間」を今後も継続し、自分の学習課題を自主的に決めて、主体的に学習に取り組ませていきます。お手本になる自学ノートを掲示することで意欲付けもしていきます。

○将来の夢や目標について考えさせていく手立てとして、学校全体で定期的に設定している「ゆめ週間」や、長期スパンで取り組ませている「ゆめノート（松梅小版キャリアパスポート）」の双方を効果的に関連させていく指導を継続して設定していきます。

【ご家庭では】

○「家庭学習パワーアップ週間」では、学年に応じた学習時間に、今の自分に必要な学習課題を自主的に設定して取り組んでいきます。活動を通して、お子さんの主体性などで成長が見られたときには、褒めて成長を認めていくことで、次に進んでいこうとするお子さんの意識が更に高まります。

○夢や目標について、保護者の皆様の経験・体験を話したり、お子さんの今の段階での思いや一生懸命頑張っていることなどを聞いてあげたりすることが、将来に向けて自己を見つめたり、自己を肯定したりしていくことにつながります。